

1945.8.1 すさまじい長岡空襲

8月1日の午後9時6分、長岡の夜空に警戒警報のサイレンが鳴り響きました。続いて午後10時26分、警戒警報は空襲警報に変わり、直後の10時30分にB29による焼夷弾(しょういだん)爆撃(ばくげき)が始まりました。B29は一機また一機と焼夷弾を投下しました。夜間低空からの容赦無い無差別爆撃によって、長岡のまちは瞬(またた)く間に炎に包まれていきました。

猛火の中を、母の名を呼び、子の名を叫んで逃げ惑う人びと。多くの人が炎に飲み込まれていく様子は、地獄絵さなが

らだったといえます。

空襲は、8月2日の午前0時10分まで続きました。1時間40分に及び空襲で、市街地の8割が焼け野原となり、1,488人の尊(とうと)い生命が失われました。

925トンものE46集束(しゅうそく)焼夷弾等が投下され、163,000発余りの焼夷爆弾や子弹(しだん)が豪雨のように降りそそぎ、長岡を焼き払ったのです。当時の市域で、焼夷弾の落ちなかった町内はないといってよいほどすさまじい空襲でした。

罹災時の人口 - 74,508人(1945年7月)・爆撃機の数 - B29爆撃機125機(テニアン島第313航空団)・投下爆弾量 - 924.3トン(各種焼夷弾163,456発)
・死者数 - 1,488人・罹災戸数 - 11,986戸



焼け野原に残った公会堂と安栄館
(大手通十字路付近)



柿川(船江町付近)

資料館に寄せられるよくある質問

Q1 なぜ県下で長岡だけが空襲されたのですか

A アメリカ軍は1945(昭和20)年3月10日の東京大空襲以来、焼夷弾(しょういだん)で日本の都市を無差別に爆撃する方法に転換しました。人口の多い大都市からだんだ

ん少ない地方都市へ攻撃したのです。長岡は県下で人口が2番目に多く、交通の要衝(ようしょう)で、兵器を作る工場がたくさんあり、石油も産出するところでした。

長岡空襲について 最終更新日 2025年1月1日(編集 長岡市)